

教育に関する事務の管理及び執行状況の 点検及び評価報告書（平成30年度分）

津久見市教育委員会

はじめに

教育の政治的中立、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図る目的で、平成27年4月1日から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正されました。これにより、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」が設置されるとともに、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が位置付けられました。

新教育委員会制度では、市長が直接教育長を任命することにより、任命責任が明確化するとともに、総合教育会議を市長が招集することにより、市長が教育行政に果たす役割が明確になりました。このように、教育委員会制度が新しくなったことで、地方公共団体としての教育施策に関する方向性が明確になったといえます。

本市教育の基本理念としては、本市には豊かな自然や歴史・文化・産業、世界的に稀な地質資源など多様な資源があります。これらを次の世代に受け継ぎ、さらに魅力的な地域として発展していくことを目指し、郷土への愛着や誇りを持ち、グローバル化の進展に対応するため、生涯を通して学び続けることが必要です。

そのために、学校と家庭・地域が一体となった教育環境の中で、生きる力の基盤となる確かな学力の育成「知」を核として、心の豊かさを育む「徳」、体育・健康教育「体」の調和を基本に捉えるとともに、ふるさとを愛し、自ら学ぶ意欲と活力に満ちた津久見っ子の育成を図っていきます。また、生涯の各期に応じた多様な学習機会を提供し、地域の伝統文化の伝承や芸術・スポーツ活動等を通して、心豊かなひとを育てるまちづくりを推進します。

本報告書の作成の目的は、平成20年度に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施することが義務付けられたことを機に、教育委員会で「津久見市の教育に関する事務の点検・評価の基本方針」を定め、事務の管理及び執行の状況について、「第5次津久見市総合計画前期基本計画進ちょく状況に係る意見交換会」を活用して報告書を毎年作成することで、問題点の把握及び解決に努めることと認識しています。

教育委員会の事務事業について、より一層ご理解を深めていただくものであることを希望するとともに、「郷土を想う心の豊かなひとを育てるまち」となるために更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

津久見市教育委員会

目 次

I 点検・評価にあたって

- | | | | |
|---|--------------------------|-----|---|
| 1 | 津久見市の教育に関する事務の点検・評価の基本方針 | ・・・ | 4 |
| 2 | 教育委員会の組織 | ・・・ | 5 |
| 3 | 教育委員会の開催状況 | ・・・ | 5 |
| 4 | 記入方法 | ・・・ | 6 |

II 平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検

及び評価報告書

- | | | | | |
|---|--------------------|------------|-----|-------|
| 1 | 学校教育の充実 | (担当 学校教育課) | ・・・ | 7～18 |
| 2 | 社会教育の充実 | (担当 生涯学習課) | ・・・ | 19～22 |
| 3 | スポーツ・レクリエーション活動の推進 | (担当 生涯学習課) | ・・・ | 23～24 |
| 4 | 青少年の健全育成 | (担当 生涯学習課) | ・・・ | 25～28 |
| 5 | 地域文化の伝承と芸術文化活動の充実 | (担当 生涯学習課) | ・・・ | 29～32 |

I 点検・評価にあたって

1 津久見市の教育に関する事務の点検・評価の基本方針

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、津久見市教育委員会が実施する「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、次のとおり行うものとする。

① 評価の時期・対象

毎年度、教育委員会が前年度に実施した事務事業において、下記②の(1)及び(2)の2項目について点検・評価を行う。

② 点検・評価の項目

- (1) 津久見市総合計画における教育委員会所管項目の「施策」について点検・評価を行う。
 - ア テーマ毎に「施策の方向」を設け、「計画内容及び主要な施策」ごとに当該年度の具体的な実施状況を点検・評価する。
 - イ 当該年度の進捗状況を目標値と比較し、AからEまでランクを付けて評価を行う。
- (2) その他、教育施策上の重要課題

③ 点検・評価の指標

点検・評価を行うにあたっては、津久見市総合計画進ちょく状況に係る意見交換会委員による同意見交換会の知見を活用するものとする。

④ 点検・評価のスケジュール

- ・2月 当該年度事務のマネジメントシートを更新（自己点検・評価）
- ・3月 市総合計画進ちょく状況に係る意見交換会による点検・評価
- ・6月～7月 報告書の作成
- ・8月 教育委員会定例会で報告書を決定（議決）
- ・9月 市議会に報告、公表

⑤ 市議会への報告、公表について

- (1) 市議会への報告
教育委員会が決定した点検・評価の報告書は、市議会に提出するものとする。
- (2) 公表の方法
点検・評価結果の報告書は、市議会に提出した後、教育委員会のホームページで公表する。

⑥ 点検・評価結果の反映

点検・評価結果については、教育行政に適切に反映させ、教育行政の運営の効率化及び質の向上を図るものとする。

⑦ その他

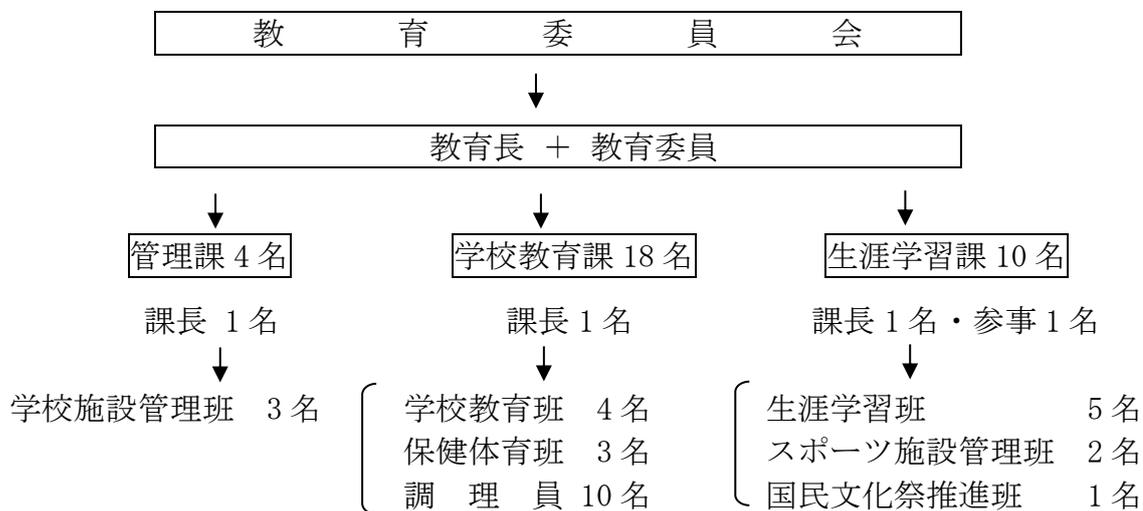
点検・評価の項目、報告書の様式、市議会への提出（報告）の方法等については、各教育委員会が実情を踏まえて決めることになっているため、市議会や委員会、市の意見を参考にしながら随時改善していくこととする。

2 教育委員会の組織

教育委員会委員

職名	氏名	摘要
教育長	平山正雄	H25.11.9（教育長就任）
教育長職務代理	金田貞喜	H30.10.1（職務代理就任）
委員	佐藤裕子	H28.12.7（教育委員就任）
委員	高司龍二	H28.12.7（教育委員就任）
委員	深井辰海	H30.10.1（教育委員就任）

教育委員会体制



3 教育委員会の開催状況

区分	開催日	区分	開催日
教育委員会	平成 30 年 4 月 25 日	教育委員会	10 月 25 日
教育委員会	5 月 25 日	教育委員会	11 月 26 日
教育委員会	6 月 25 日	教育委員会	12 月 25 日
教育委員会	7 月 25 日	教育委員会	平成 31 年 1 月 23 日
教育委員会（臨時）	8 月 7 日	教育委員会	2 月 25 日
教育委員会	8 月 27 日	教育委員会	3 月 25 日
教育委員会	9 月 25 日		

4 記入方法

施策名・・・総合計画の「施策名」を記入する。

施策の方向・・・総合計画の「施策の方向」を記入する。

計画内容及び
主要な施策
・・・総合計画の「計画内容及び主要な施策」を記入する。

1. 施策指標の
進ちよく状
況の評価欄
・・・目標値に対する進ちよく状況の「評価」を記入する。

- A:目標値に達成した（100%）
 - B:概ね目標値に達成した（100%未満～75%以上）
 - C:目標値に達成してない部分がある（75%未満～50%以上）
 - D:ほぼ目標値に達成してない（50%未満～25%以上）
 - E:全く目標値に達成してない（25%未満）
- 右欄にその説明等を記入する。

2. 課題等・・・昨年度から引き続き課題等となっているものを記入する。

3. 取組状況等・・・実際に行った取組状況等を記入する。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	学校教育課
施策名	学校教育の充実	
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。</p> <p>学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>	
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実 (2) 確かな学力を育む教育の推進 (3) 健やかな体を育む教育の推進 (4) 豊かな心を育む教育の推進 (5) 地域とともにある学校づくり</p>	

1. 施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
B	全国学力調査平均正答率との差 (小学校)	国語A	+2.2	-0.7	平均正答率がすべての項目で全国値を上回る	平成30年度は、国語A以外は全国値を大きく上回ることができた。
		B	+0.5	+2.3		
		算数A	+5.4	+5.5		
		B	+2.1	+4.5		
	全国学力調査平均正答率との差 (中学校)					
	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合					
	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合					
	人権・同和教育研修会開催回数					
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数					

2. 課題等

平成30年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率）								
教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村	70.0	57.0	69.0	56.0	73.0	56.0	65.0	38.0
大分県	72.0	56.0	65.0	52.0	77.0	62.0	66.0	45.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	76.1	61.2	66.1	46.9

【平成 30 年度学力向上アクションプランに基づく検証】

○平成 30 年度全国学力・学習状況調査ですべての教科で全国平均を超えた学校数
小（2 / 4） [達成指標：小（3 / 4）] ▲未達成

○各校の児童生徒の授業評価において、「授業がわかる」と答える児童生徒の割合
[達成指標：小学校 90%]

小学校平均値 95% ⇒ ◎達成
▲学校間によって数値にばらつきがある。

- 「授業改善 5 点セット」に基づいた授業改善の取組が、教務主任ならびに研究主任を中心に行われつつあるが、組織的かつ計画的に取り組めていない学校がある。
- プレートの活用が、児童生徒に「めあて」や「課題」を意識させるものとして、十分に機能できていない。
- 学力向上支援教員ならびに習熟度別指導推進教員の公開授業に全教員が 2 回以上参加できた。
- 児童による授業評価を行う学校が増えてきた。
- 自主的な合同教科部会の実施には至っていない。

【課題（令和元年度に向けて）】

①児童・生徒の課題

- 学習に向かう望ましい学習規律の確立（共通指導事項の確認 ⇒ 津久見スタンダード）
- 活用問題に必要な力（読解力、情報分析処理能力、説明力）の獲得
- 家庭学習の定着（家庭学習のすすめ・てびきの活用 ⇒ 家庭との連携）

②学校等が抱える組織的・構造的な課題

- 授業規律及び学習規律等の校内での徹底
- 授業力向上に向けての意識改革ならびに校内研修での共通理解
- 低学力層に対する組織的な取組

3. 取組状況等

【令和元年度津久見市学力向上施策に基づいた取組の徹底】

- (1) 「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
 - 学力向上支援教員等を中心とした、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりの推進
 - 市の学力向上に係る研修会の充実
 - 先進地視察による授業改善に向けた意欲喚起
 - 小学校における、低学力層を対象とした補充学習の取組の徹底
 - 通級教室等には該当しないが支援を要する児童・生徒の学習支援のため、市費による特別支援教育支援員を配置
 - 津久見小学校の教科担任制の拡大（3～6年）
 - 授業改善のための児童生徒による授業評価の実施
 - 市独自の学力調査の実施（小1～中2）
- (2) 新学習指導要領の実施に関して
 - 小学校外国語教育への対応
 - 新学習指導要領への実施に向けた啓発活動
 - コミュニティスクールを中核とした地域人材活用の充実
 - 防災教育（防災オリエンテーリング・引き渡し訓練）での連携

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	学校教育課
施策名	学校教育の充実	
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。</p> <p>学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>	
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実 (2) 確かな学力を育む教育の推進 (3) 健やかな体を育む教育の推進 (4) 豊かな心を育む教育の推進 (5) 地域とともにある学校づくり</p>	

1. 施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	全国学力調査 平均正答率との差（小学校）					
D	全国学力調査平均正答率との差（中学校） 国語 A B 数学 A B	%	+0.6 -2.2 -0.6 -4.1	-3.1 -5.2 -1.1 -8.9	平均正答率がすべての項目で全国値を上回る	全ての教科・項目で、全国平均正答率を下回った。
	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合					
	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合					
	人権・同和教育研修会開催回数					
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数					

2. 課題等

平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率）

教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村	70.0	57.0	69.0	56.0	73.0	56.0	65.0	38.0
大分県	72.0	56.0	65.0	52.0	77.0	62.0	66.0	45.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	76.1	61.2	66.1	46.9

【平成 30 年度学力向上アクションプランに基づく検証】

○平成 30 年度全国学力・学習状況調査ですべての教科で全国平均を超えた学校数
中 (0 / 2) [達成指標：中 (2 / 2)] ▲未達成

○各校の児童生徒の授業評価において、「授業がわかる」と答える児童生徒の割合
[達成指標：中学校 85 %]

中学校平均値 71 % ⇒ ▲未達成
▲達成指標を多く下回る結果となった。

- 「授業改善 5 点セット」に基づいた授業改善の取組が、組織的かつ計画的に取り組めていない。
- 新大分スタンダードの授業展開がまだ十分浸透できていない。
- 学力向上支援教員ならびに習熟度別指導推進教員の公開授業への参加が十分でない。
- 生徒による「授業者について」の授業評価が行われるようになってきた。
- 自主的な合同教科部会の実施には至っていない。

【課題（令和元年度に向けて）】

①児童・生徒の課題

- 学習に向かう望ましい学習規律の確立（共通指導事項の確認⇒津久見スタンダード）
- 活用問題に必要な力（読解力、情報分析処理能力、説明力）の獲得
- 個別指導の充実

②学校等が抱える組織的・構造的な課題

- 授業規律および学習規律等の校内での徹底
- 授業力向上に向けての意識改革
- 低学力層に対する組織的な取組

3. 取組状況等

【令和元年度津久見市学力向上施策に基づいた取組の徹底】

(1)「中学校学力向上 3 つの提言」に関して

- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
 - ・単元を通して、生徒が主体的に取り組み、対話的な学習を通して学びを深めていける単元計画の構築を図る。
- 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - ・教科合同部会を開催し、評価問題（活用問題）の作成等を実施
 - ・数学科・英語科を中心に「タテ持ち」の効果検証を行い、他教科への拡充を図る。
- 「生徒と共に創る授業」の推進
 - ・授業評価への「授業者についての評価」（単元ごともしくは 1 ヶ月ごと）の導入

(2) 課題克服に向けて（国語・数学）

- 問題解決的な展開の授業を、全教員が学期に一回以上は行う。
- 習熟度別指導教員の公開授業に、全教員が必ず 2 回以上は参加する。
- 全国学力・学習状況調査 B 問題を取り入れた授業を、全担当教員が 3 回以上行う。
- 習熟度別指導推進教員配置校においては、全指導時間数の 80 % 以上は習熟度別指導を行い、指導法を研究する。
- 夏季休業中 5 日以上は補充学習と定期的な放課後個別指導を行う。
- 低学力層に向けた具体的な体制を構築し、学期ごとに検証・改善を行う。

平成30年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課
-----	-------

施策名	学校教育の充実
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。</p> <p>学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。</p> <p>さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実</p> <p>(2) 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(3) 健やかな体を育む教育の推進</p> <p>(4) 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(5) 地域とともにある学校づくり</p>

1. 施策指標の進ちょく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差 (小学校)					
	全国学力調査平均正答率との差 (中学校)					
B	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合	%	46.8%	50.0%	60以上	平成30年度は50.0%で目標値の60%に届かず、達成できていない。学年・男女によって能力に差がある。
	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合					
	人権・同和教育研修会開催回数					
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数					

2. 課題等

平成30年度 大分県 児童生徒の体力・運動能力等調査結果から																				
○小学生(8種目) 全国平均以上の割合 50.0%(48/96種目) (比較:H29=46.8%)																				
学年	男子	全国平均以上の種目								学年	女子	全国平均以上の種目								
		握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール			握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール	
1年生	5種目	○	○	○	○	○			○	1年生	6種目	○		○	○	○	○		○	
2年生	3種目			○		○			○	2年生	4種目		○	○		○			○	
3年生	6種目	○	○	○	○	○			○	3年生	3種目			○	○	○				
4年生	3種目		○		○				○	4年生	4種目		○		○	○			○	
5年生	1種目								○	5年生	3種目		○		○				○	
6年生	5種目			○	○	○		○	○	6年生	5種目		○	○	○	○			○	
男子合計 47.9%(23/48種目) (比較:H29=36.9%)										女子合計 52.1%(25/48種目) (比較:H29=54.2%)										
○中学生(8種目) 全国平均以上の割合 47.9%(23/48種目) (比較:H29=60.4%)																				
学年	男子	全国平均以上の種目								学年	女子	全国平均以上の種目								
		握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール			握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール	
1年生	3種目	○		○		○				1年生	5種目	○		○	○				○	○
2年生	4種目	○		○				○		2年生	4種目	○			○				○	○
3年生	3種目	○	○						○	3年生	4種目	○	○		○					○
男子合計 41.7%(10/24種目) (比較:H29=66.7%)										女子合計 54.2%(13/24種目) (比較:H29=54.2%)										

○児童生徒・学校質問紙調査結果

小学生(5年)	男子	女子
運動が好き	60.9%	44.2%
体育の授業楽しい	60.9%	54.7%
体育の授業の目標が示されている	50.0%	43.4%

【平成30年度体力向上アクションプランに基づく検証】

○運動好きな児童生徒の割合 [達成指標：小学校 男子90%以上 女子85%以上]

- ・小学校 男子 86.3% ▲未達成
- 女子 84.5% ▲未達成

○全国平均以上の項目の割合 [達成指標：小学校 男子50%以上 女子50%以上]

- ・小学校 男子 47.9% ▲未達成
- 女子 54.1% ◎達成

○体力の状況についての課題

- ・学年あるいは男女によって体力の状況にばらつきがある。
- ・小学校は男女とも「反復横跳び」「50M」に弱さがある。
- ・一校一実践の取組は各学校で共通理解の下、推進できている。
- ・個々の体力・運動能力のデータがファイリングされていないため自己分析ができず、めあてを持った取組につながっていない。
- ・日々の体育の授業を全体に広めるなど、組織的な授業改善への学習が必要である。

【総括】(小学校)

○各校での組織的な一実践の取組や体育専科教員を中心にした取組が浸透してきているものの、昨年度と比較すると未達成が目立つ。個々の取組から一歩進んで、組織的な取組がより求められる。さらに、スクールヘルスアップ事業の指定を受けて、体育専科教員、栄養教諭、養護教諭、市の保健師と連携した食育の授業実践により、児童ならびに教職員の食生活・健康生活に関する意識が大きく変化してきた。令和元年度は、事業の最終年度にあたるため、推進校(青江小・第一中)の取組を全小中学校へ、さらには津久見市全体へ広げていく必要がある。

3. 取組状況等

【令和元年度体力向上アクションプランに基づく取組の徹底】(小・中共通)

(1) 体育の授業における授業改善

- 「めあて」「振り返り」が明確に位置づけられた授業づくりを推進する。
- 生徒指導の3機能を意識した学びの場を設定し、運動意欲の向上を図る。
- 見合い、教え合い等、児童生徒による主体的な学習展開を心がける。
- ICT機器を活用した振り返り活動を行う。
- 運動を通して運動を楽しむ態度と生涯スポーツへの意欲化を図る。

(2) 運動好きな児童・生徒の育成

- 「運動することを好きになり、運動の機会を広げる」を共通テーマとして取り組む。
- 体育朝会・リレー大会・全校縦割り班活動など、学校独自の取組を推進する。
- 児童会・生徒会と連携した、児童生徒がつくる活動や行事を計画・実施する。

(3) 望ましい生活習慣の育成

- 中学校において、体育の授業以外にも組織的に取り組むよう助言を行う。
- 児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取組を行う。
- 体育・保健体育授業以外でも、運動習慣化の確立の取組を行う。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	学校教育課
施策名	学校教育の充実	
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。</p> <p>学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>	
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実</p> <p>(2) 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(3) 健やかな体を育む教育の推進</p> <p>(4) 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(5) 地域とともにある学校づくり</p>	

1. 施策指標の進ちょく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差 (小学校)					
	全国学力調査平均正答率との差 (中学校)					
	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合					
D	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合	%	60.4%	47.9%	60以上	平成 30 年度の数値は目標値を大きく下回った。運動する子とそうでない子の二極化が顕著である。
	人権・同和教育研修会開催回数					
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数					

2. 課題等

平成30年度 大分県 児童生徒の体力・運動能力等調査結果から																			
○小学生(8種目) 全国平均以上の割合 50.0%(48/96種目) (比較:H29=46.8%)																			
学年	男子	全国平均以上の種目								学年	女子	全国平均以上の種目							
		握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール			握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール
1年生	5種目	○	○	○		○			○	1年生	6種目	○		○	○	○	○	○	
2年生	3種目			○		○			○	2年生	4種目		○	○		○		○	
3年生	6種目	○	○	○	○	○			○	3年生	3種目			○	○	○			
4年生	3種目		○		○				○	4年生	4種目		○		○	○		○	
5年生	1種目								○	5年生	3種目		○		○			○	
6年生	5種目			○	○	○		○	○	6年生	5種目		○	○	○	○		○	
男子合計 47.9%(23/48種目) (比較:H29=36.9%)									女子合計 52.1%(25/48種目) (比較:H29=54.2%)										
○中学生(8種目) 全国平均以上の割合 47.9%(23/48種目) (比較:H29=60.4%)																			
学年	男子	全国平均以上の種目								学年	女子	全国平均以上の種目							
		握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール			握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール
1年生	3種目	○		○		○				1年生	5種目	○		○	○			○	○
2年生	4種目	○		○			○		○	2年生	4種目	○			○			○	○
3年生	3種目	○	○						○	3年生	4種目	○	○		○				○
男子合計 41.7%(10/24種目) (比較:H29=66.7%)									女子合計 54.2%(13/24種目) (比較:H29=54.2%)										

○児童生徒・学校質問紙調査結果

中学生(2年)	男子	女子
運動が好き	55.9%	51.3%
体育の授業楽しい	52.5%	48.7%
体育の授業の目標が示されている	66.1%	61.5%

【平成 30 年度体力向上アクションプランに基づく検証】

- 運動好きな児童生徒の割合 [達成指標：中学校 男子 90%以上 女子 85%以上]
 - ・中学校 男子 88.5% ▲未達成
 - 女子 80.4% ▲未達成
- 全国平均以上の項目の割合 [達成指標：中学校 男子 50%以上 女子 50%以上]
 - ・中学校 男子 41.7% ▲未達成
 - 女子 54.2% ◎達成
- 体力の状況についての課題
 - ・学年あるいは男女によって体力の状況にばらつきがある。
 - ・男子の成績が前年度より大幅に低下。女子は逆に安定している。
 - ・個々の体力・運動能力のデータがファイリングされていないため、自己分析ができず、めあてを持った取組につながっていない。
 - ・運動をする子とそうでない子の二極化、あるいは適切な運動習慣が身につけていない生徒の増加。

【総括】(中学校)

○昨年度と比較して、調査結果は伸び悩んでいるものの、各校で、調査結果を改善するための一校一実践に取り組んできている。体力向上推進教員が中心となって、教材や教具、または場の工夫などについてアドバイスを行うことができている。その結果、握力やボール投げでは結果が現れてきている。さらにスクールヘルスアップ事業の公開授業では体力向上推進教員、栄養教諭、養護教諭、市の保健師・管理栄養士とも連携を図り、生徒ならびに保護者や地域に成果を広め、食生活や運動習慣が津久見市全体の課題であることを啓発しながら、実践を深めることができた。

3. 取組状況等

【令和元年度体力向上アクションプランに基づく取組の徹底】(小・中共通)

(1) 体育の授業における授業改善

- 「めあて」「振り返り」が明確に位置づけられた授業づくりを推進する。
- 生徒指導の3機能を意識した学びの場を設定し、運動意欲の向上を図る。
- 見合い、教え合い等、児童生徒による主体的な学習展開を心がける。
- ICT機器を活用した振り返り活動を行う。
- 運動を通して運動を楽しむ態度と生涯スポーツへの意欲化を図る。

(2) 運動好きな児童・生徒の育成

- 「運動することを好きになり、運動の機会を広げる」を共通テーマとして取り組む。
- 体育朝会・リレー大会・全校縦割り班活動など、学校独自の取組を推進する。
- 児童会・生徒会と連携した、児童生徒がつくる活動や行事を計画・実施する。

(3) 望ましい生活習慣の育成

- 中学校において、体育の授業以外にも組織的に取り組むよう助言を行う。
- 児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取組を行う。
- 体育・保健体育授業以外でも、運動習慣化の確立の取組を行う。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

		担当課	学校教育課
施 策 名	学校教育の充実		
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。</p> <p>学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。</p> <p>さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>		
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実</p> <p>(2) 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(3) 健やかな体を育む教育の推進</p> <p>(4) 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(5) 地域とともにある学校づくり</p>		

1. 施策指標の進ちよく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（小学校）					
	全国学力調査平均正答率との差（中学校）					
	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合					
	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合					
B	人権・同和教育研修会開催回数	回	5回	5回	5回	人権・同和教育研修会開催回数は5回開催することができた。加えてスキルアップ研修においても研修会を行った。
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数					

2. 課題等

<p>○人権・同和教育研修会開催回数は5回開催することができた。</p> <p>○人権教育担当者会で担当者が学んだことを、校内で広め共有すること（校内研修での還流）</p> <p>○部落問題学習については、まだまだ取組としては薄い。校内の研修会で講師を招いて学習会をした学校もあるが、若い世代が多くなる現状を考えると、部落問題に直接スポットをあてた学習会を積極的に行っていく必要がある。教材研究も同様である。</p> <p>○若い世代が増える現状を考えると、仲間づくりや学級づくりについて、スキルアップの研修を計画的に実施していく必要がある。</p> <p>○家庭・地域と連携した人権・同和教育の推進が必要である。</p>

3. 取組状況等

- 人権・同和教育研修会開催を計画的に実施するとともに、その充実を図る。
 - ◆人権教育担当者会 3回
 - ◆管理職研修 1回
 - ◆人権同和教育研究会夏期講演会 1回
 - ◆人権同和教育研究会研究大会 1回
- 部落問題学習・人権学習に必要な書籍・DVDの購入を進める。
- 津久見市スキルアップ研修において、人権・同和教育について市教委として講義を行い、人権・同和教育の実践力の向上を図る。
- 校長会議・教頭会議・人権教育担当者会議において、「部落差別解消推進法」は部落問題学習の充実・徹底を図らなければならない根拠法であるという視点に立ち、今後の取組の推進を指導していく。特に、『部落差別解消法』より学ぶ・『人権教育の指導方法等の在り方について』[第三次とりまとめ] 概要版の効果的な活用を図る。
- 「部落問題学習」を組織的に実践していくとともに、各校内での研修会の充実を図る。
- 大分の部落問題学習（県：人権同和教育課）の効果的な活用を進める。

【参考資料】

H30年度に津久見市の中学生3年生を対象にした調査

- (1) これまでの学校の学習で、「部落差別に関する問題（同和問題）」について学びましたか
 - ・かなり学んだ 38%
 - ・少しは学んだ 46%
 - ・全く学んでいない 3%
 - ・わからない 13%
- (2) 「部落差別に関する問題（同和問題）」について、初めて知ったのはどういうきっかけからですか
 - ・学校の授業 69%
 - ・家族、友だち、知り合い 7%
 - ・マスメディア等 12%
 - ・きっかけはない、その他 12%
- (3) 今でも被差別部落の人に対して、差別意識を持った人がいると思いますか
 - ・もういない 4%
 - ・中にはいる 52%
 - ・まだ多い 8%
 - ・わからない 36%
- (4) 部落差別はなくせると思いますか
 - ・完全になくすことができる 14%
 - ・かなりなくすことができる 42%
 - ・なくすことは難しい 23%
 - ・わからない 21%
- (5) これまでの学習で「水平社宣言」について学びましたか
 - ・学んだことを覚えている 51%
 - ・学んだがよく覚えていない 21%
 - ・学んだかどうか覚えていない 19%
 - ・学んでいない 9%

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

		担当課	学校教育課
施策名	学校教育の充実		
施策の方向	<p>幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。</p>		
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 幼児教育の充実 (2) 確かな学力を育む教育の推進 (3) 健やかな体を育む教育の推進 (4) 豊かな心を育む教育の推進 (5) 地域とともにある学校づくり</p>		

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差 (小学校)					
	全国学力調査平均正答率との差 (中学校)					
	体力・運動能力調査 小学生全国平均以上の割合					
	体力・運動能力調査 中学生全国平均以上の割合					
	人権・同和教育研修会開催回数					
B	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数	校	8/8校	7/7校	7/7校	各校で、地域と連携した特色ある取組が展開できている。

2. 課題等

<p>○学校の重点目標・分掌目標等と職員の自己目標との連動を図るうえで、目標設定やレベル設定についてさらに研修及び指導の必要がある。</p> <p>○学校評価の結果をどのように分析し、どのように活用・発展させていくかに課題が残る。さらに、課題解決に向けて、学校と家庭・地域とが連携して、どのように取組を進めていくかについても、まだまだ十分に取組めていない。</p> <p>○組織的な学校運営体制の形は整ってきたものの、主要主任を核としたミドル・アップダウン・マネジメントの定着には市全体として至っていない。</p> <p>○主体的に取り組む学校運営体制構築のために、推進チームのチームリーダー（主任）及びメンバー各自の自覚や意欲を向上させる必要がある。</p> <p>○家庭・地域に主体性を持たせた取組までに至っていない。</p> <p>○中学校における家庭・地域との協働、とりわけ地域人材の活用については、今後さらに研究・工夫の必要性がある。</p>

3. 取組状況等

【令和元年度市町村組織力向上計画に基づく取組の徹底】

(1) 学校評価の改善

- 校長会議・教頭会議において、4点セットの総括を行い、年度をまたぐ4点セットの作成を進めていくよう指導する。
- 「学校評価4点セット（津久見市版）」をより機能的に活用するために、様式のバージョンアップを定期的に検討するとともに、検証改善ツール（各校で独自に作成）を効率よく活用する。
- 校長会議にて「学校評価4点セット（津久見市版）」に係る議題を設定し、より実働的な取組としていくことで、学校評価4点セットを最上位のマネジメントツールとして位置付け定着させる。
- 学校の重点目標・分掌目標等と職員の自己目標との連動をさらに図るため、目標設定やレベル設定について研修及び指導を推進する。

(2) 学校運営体制の充実

- 校長会議・教頭会議・教務主任会議等において、次の点について指導徹底を図る。
 - ・「学校評価4点セット（津久見市版）」に基づき、推進チームに企画・運営・評価等を担わせる取組を進めていくこと。
 - ・運営委員会の充実と職員会議の効率化、各種校内委員会の充実とミドル・アップ・ダウン・マネジメントの定着を図っていくこと。
- 教務主任会議において、主幹教諭を活用する等、主任の役割の周知と意欲の向上を図る。
- 推進チーム全体の自覚と意欲を向上させるため、ミドルリーダー並びに分掌主任の意識向上を図る取組を推進する。（個々の目標管理との連動を強化する）

(3) 学校・家庭・地域の協働の推進

- 家庭・地域の主体的な取組に移行できる内容を明確にし、家庭・地域の教育力の向上に努める。
- 市内先進校の取組をさらに市内全校へと広める研修の場を、校長会議・教頭会議・教務主任会議等で設定する。
- 中学校における家庭・地域との協働、とりわけ地域人材の活用を推進するために、地域人材の発掘・育成に着手する。
- 各中学校区のコミュニティースクールの連携・連動に向けた支援・指導を校長会議・教頭会議・学校運営協議会等において行う。
- 地域が主体的に参画できるような組織・体制づくりを進めていく。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

		担当課	生涯学習課
施策名	社会教育の充実		
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホール企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。		
計画内容及び主要な施策	(1) 学習機会の創出 (2) 市民に愛される図書館づくり (3) 学術交流活動の推進		

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32 目標値	説明等
B	公民館利用状況	回	1,221	1,426	1,490	大ホール、講義室、研修室、調理室、和室の利用回数
	公民館教室数					
	蔵書貸出数					
	地質資源の講演回数					

2. 課題等

公民館は昭和 50 年に建設され、老朽化による修繕が多く発生し、今後、公民館をどうしていくのかということが大きな課題である。
また、多くの教室が 2 階の大ホールであり、階段しかないために高齢者や障がい者の方に不便をかけている現状である。
駐車場も狭く、多くの台数が止められない。天気がいい日には自転車や徒歩で来る人でも、雨天時には車を使うこともあるので、駐車場の確保が課題である。

3. 取組状況等

公民館教室は地域住民にとって最も身近な学習拠点というだけでなく、交流の場として重要な役割を果たしている。
自主教室も年々増えている状況である。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	社会教育の充実	
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホール企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 学習機会の創出 (2) 市民に愛される図書館づくり (3) 学術交流活動の推進	

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32 目標値	説明等
	公民館利用状況					
C	公民館教室数	回	10	11	15	女性・成人・その他を対象とした、各公民館教室の開催回数
	蔵書貸出数					
	地質資源の講演回数					

2. 課題等

高齢者教室等人数が多い教室は 2F 大ホールの使用となり、階段しかないために、高齢者や障がい者の方に不便をかけている。
子どもから高齢者まで、利用者の声を聞いて、各教室の開催を心掛けているが、なかなか教室の幅が広がっていない。(開催時間・開催内容の検討が必要)

3. 取組状況等

女性教室 旬の野菜でいきいきクッキング パッチワーク教室
パン作り教室

成人教室 フォトでホットスクール 色えんぴつ画教室
扇子踊り教室 竹工芸教室

その他 男の楽・らくクッキング 親子パン作り教室 押し花
フレスコ画教室 (一般、子ども、中・高生)

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	社会教育の充実	
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホールの企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 学習機会の創出 (2) 市民に愛される図書館づくり (3) 学術交流活動の推進	

1. 施策指標の進ちょく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	公民館利用状況					
	公民館教室数					
B	蔵書貸出数 (図書館利用者数)	人	42	45	55	1日当たりの貸出冊数 (1日当たりの貸出利用者数)
	地質資源の講演回数					

2. 課題等

平成8年の開館から23年が経過し、施設の老朽化対策が問題となっている。平成30年度は「外壁・屋上防水改修工事 (平成29年度からの継続)」と「図書館システムの再構築」を実施した。令和元年度は、「館内照明器具のLED化」と「空調設備の改修工事」及び「駐輪場の改修工事」を予定している。

また、図書館資料の年間貸出冊数は年々減少傾向にあり、その主な要因として、市の人口減少やインターネット等の普及による情報収集方法の変化、習い事・部活動などによる子どもたちの忙しさ等が考えられる。今後も同様な状況が続くと予想される中、図書館をより身近に感じ、読書に親しむ機会を増やす取組が必要である。

3. 取組状況等

- 図書館資料の管理
幅広い資料の収集、不用資料の除籍、除籍資料の無料配布
- 図書館利用の拡大
おはなし会、映写会、図書館まつり、新刊・企画展示コーナー、玄関ホールの展示活用、移動図書館車の運行、保戸島出張所への資料設置、就労情報の掲示
- 県内公共図書館、市内各学校との連携
相互貸借の活用、職場体験学習の受入、市内各学校への団体貸出、子ども司書養成講座への参加
- 広報活動
図書館だより・こどもしつだより、市報、図書館ホームページ、年間行事や特別行事のお知らせ配布
- 施設整備
外壁・屋上防水改修工事、図書館システムの再構築

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	社会教育の充実	
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホール企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 学習機会の創出 (2) 市民に愛される図書館づくり (3) 学術交流活動の推進	

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29 年度	30 年度	H32 目標値	説明等
	公民館利用状況					
	公民館教室数					
	蔵書貸出数					
B	地質資源の講演回数	回	1	8	10	津久見の地質等に関する講演会や現地説明会等、学習機会の提供

2. 課題等

津久見市には広大な石灰石鉱山をはじめ、長目の蛇紋岩や四浦の珪石・マンガンなど、多種にわたる資源が点在している。「網代島の宇宙塵」や「江ノ浦の隕石衝突の痕跡」等、世界的にも非常に貴重な地質資源もある一方で、これらの資源に関する情報発信のための常設展示スペースがない状況である。網代島については、地区所有のため地域住民の理解・協力を得ることが必要である。

3. 取組状況等

○網代島での現地説明会及び室内での講演会や展示会を行った。
○国民文化祭と市民セミナーでは尾上哲治先生を招聘した。
○地域資源の看板設置 4 件 (エモン様誘導板、長目御茶屋跡看板、長野道標看板、宗麟墓地妙林尼墓標識看板)

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

		担当課	生涯学習課
施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進		
施策の方向	市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しみ、その活動を通じて、心身ともに健康な生活が送れるよう地域に密着したスポーツ・レクリエーションの普及、啓発を促進します。また既存施設の改修や充実を図り、スポーツ交流の拠点施設を整備します。 競技スポーツの強化においては、各競技の指導者育成と選手強化を目的とした施策を推進していくことで地域の活性化を図ります。		
計画内容及び主要な施策	(1) 生涯スポーツ・レクリエーションの推進 (2) 競技スポーツの強化推進		

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
B	総合型地域スポーツクラブ参加人数	人	215	225	250	総合型地域スポーツクラブ「エンジョイつくみ」参加人数
	施設利用者数					

2. 課題等

世代を越えて誰もが色々なスポーツを楽しめる場づくりとして、関係団体である総合型スポーツクラブ「エンジョイつくみ」が各スポーツ教室やイベント事業を開催している。
地域と密着した生涯スポーツ振興の推進を図っているところだが、気軽にスポーツを楽しめるよう、いかに生涯スポーツの普及・推進をしていけるかが課題。

3. 取組状況等

H30年度は17種目を開催し、延べ11,300人の参加があった。
「エンジョイつくみ」は、津久見市ホームページの生涯学習課内で広報。
H27.5から始まった「おはよう！つくみん体操」も累計621日、延べ16,686人の市民参加となっている。(令和元年5月末日現在)

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進	
施策の方向	市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しみ、その活動を通じて、心身ともに健康な生活が送れるよう地域に密着したスポーツ・レクリエーションの普及、啓発を促進します。また既存施設の改修や充実を図り、スポーツ交流の拠点施設を整備します。 競技スポーツの強化においては、各競技の指導者育成と選手強化を目的とした施策を推進していくことで地域の活性化を図ります。	
計画内容及び主要な施策	(1) 生涯スポーツ・レクリエーションの推進 (2) 競技スポーツの強化推進	

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29 年度	30 年度	H32 目標値	説明等
	総合型地域スポーツクラブ参加人数					
A	施設利用者数	人	4,884	5,312	5,250	総合運動公園内の各施設、武道館、市内 3 グラウンドの利用者数

2. 課題等

施設の老朽化が進んでいる。今後も長期的に使用していくに当たり、改修も必要となる。簡易な修繕から大規模なものまでが予想され、財源の確保等も課題。
競技スポーツにおいては、県体や県内一周駅伝等、ここ数年不本意な成績が続いているので、競技力の強化が課題。また、市の競技スポーツの底辺を支えるスポーツ少年団の育成も重要。

3. 取組状況等

1. まちぐるみスポーツ運動
町内対抗ナイターソフトボール大会、バレーボール大会、ゲートボール大会、ペタンク大会等の各種大会の開催。
2. 子どもの体力向上啓発事業
県のスポーツ振興基金事業を活用した第 3 回津久見市スポーツ少年団対抗「アジャタ」競技大会を開催。
3. 競技団体の強化
「県民体育大会」については、競技ごとに過去の成績を分析し具体的な目標点と目標順位を示し、「オールつくみ」で取り組み、昨年より順位を上げ、総合 13 位、C 部 3 位、躍進 2 位の成績であった。「県内一周駅伝大会」については、競技力向上支援事業を継続し駅伝選手団に対し、支援を続けたい。
4. 施設整備
サニーホールグラウンド改修工事、武道館及び市民野球場屋内施設雨漏等補修工事

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	青少年の健全育成	
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 健全な家庭環境づくり (2) 学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 (3) 青少年の見守り活動の充実	

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
一	非行少年等の補導件数	件	2	2	0	津久見市在住の青少年が補導された数
	子ども連絡所設置箇所数					
	土曜寺子屋つくみ塾					
	学校支援ボランティア数					

2. 課題等

近年のスマートフォン等の急速な普及により、有害な情報が青少年でも簡単に手に入ってしまう環境にある。また、インターネットを介して見知らぬ他人との接触機会が生じた結果、自撮り被害などのトラブルや犯罪に巻き込まれてしまうケースも増加している。

ネット社会特有のこうしたトラブルや犯罪から青少年を守るためには、通信機器の適切な使用や時間制限といったルールを周囲の大人が呼びかけ徹底するなど、常日頃からの啓発が必要である。また、学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみで青少年の見守りが行えるような役割分担も重要である。

3. 取組状況等

- 港まつりのソイヤ・花火大会、扇子踊り大会時
PTAと小中学校及び幹部交番が、子どもの安全対策や見守り活動を行っている。
- 津久見市青少年健全育成市民会議総会
地域で青少年を見守るための取組について、市内の青少年関係団体と確認を行っている。
- 子どもの安全を考える市民講演会
11月に社会福祉課管轄の「津久見市要保護児童対策地域協議会」と共同で、青少年の健全育成・児童虐待防止を目的とした市民講演会を実施。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	青少年の健全育成	
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 健全な家庭環境づくり (2) 学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 (3) 青少年の見守り活動の充実	

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	非行少年等の補導件数					
B	子ども連絡所設置箇所数	箇所	344	327	380	子どもが困った時にいつでも助けしてくれる家庭や店舗・施設等の数
	土曜寺子屋つくみ塾					
	学校支援ボランティア数					

2. 課題等

子どもが地域の大人に助けを求めたいときに、「黄色いステッカー」のことが頭に浮かぶかどうかや、一般市民の周知度が疑問である。地域のどこに子ども連絡所があるのかについて、周知の幅を広げて子ども・大人双方に存在を広く浸透させる必要がある。

また、子どもが今以上に安心して地域でのびのびと育っていけるよう、関係各所と連携して、子ども連絡所として協力していただける家庭や事業所を増やしていくことも必要である。

3. 取組状況等

津久見市防犯暴力絶滅対策協議会・津久見市連合PTA・津久見市青少年健全育成市民会議・臼杵津久見警察署が連携して取り組んでいる。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	青少年の健全育成	
施策の方向	<p>家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。</p> <p>さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。</p>	
計画内容及び主要な施策	<p>(1) 健全な家庭環境づくり</p> <p>(2) 学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動</p> <p>(3) 青少年の見守り活動の充実</p>	

1. 施策指標の進捗状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	非行少年等の補導件数					
	子ども連絡所設置箇所数					
C	土曜寺子屋つくみ塾	人	74	92	160	子どもたちの学習習慣の定着と基礎学力の向上を目指して地域ぐるみで取り組むもの
	学校支援ボランティア数					

2. 課題等

土曜寺子屋つくみ塾は平成27年度にスタートし、地域サポーターや大分大学の学生が講師になっている。平成29年度までは市販のドリルを使った補充学習に取り組んでいたが、平成30年度からは、内容を漢字検定・算数検定のチャレンジに向けた学習に変更した。これには、「検定合格」という明確な目標を定めることで、基礎学力の定着・向上はもちろんのこと、子どもたちの学習意欲をより向上させる目的がある。

また、事業内容の変更については、各学校のPTA総会においても説明をし、保護者の理解を得られるように努めた。

今後は、子どもの人数が少ない学校を中心に講師を増やすことで、よりきめ細やかに学習支援ができる体制を整えていくことが課題。また、今後とも児童が自発的に継続して参加できるよう、講師と協力して楽しく魅力ある学習環境を作っていく必要がある。

3. 取組状況等

児童：保戸島小学校を除く市内4小学校の3～6年生が対象
 実施数：通常の活動は8回。その他、希望者を対象とした漢字検定・算数検定試験や、体験学習を実施。
 実施日：原則第3土曜日の10:00～12:00
 内容：漢字検定・算数検定のチャレンジに向けた学習
 場所：保戸島小学校を除く市内4小学校
 講師：地区住民、大分大学の学生
 体験学習：由布市湯布院町の九州電力保有林「くじゅう九電の森」における野外活動
 平成30年度漢字検定、算数検定ともに90%以上の合格率を達成することができた。
 また、漢字検定の取組に対しては、日本漢字能力検定協会から「特別賞」を受賞した。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	青少年の健全育成	
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。	
計画内容及び主要な施策	(1) 健全な家庭環境づくり (2) 学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 (3) 青少年の見守り活動の充実	

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32目標値	説明等
	非行少年等の補導件数					
	子ども連絡所設置箇所数					
	土曜寺子屋つくみ塾					
A	学校支援ボランティア数	人	4,708	6,487	3,800	登下校時の交通安全や学校の授業にゲストティーチャーとして参加したボランティアの人

2. 課題等

学校によって参加者数のバラつきはあるものの、各種学校支援活動は定着している。今後はボランティアの安定した参加と、新規参加者の確保が課題となる。
 また、現在は各学校が学校支援ボランティアの事業を行っているため、今後は行政・地域・学校がより連携を深め、人材に関する情報共有や、課題の共有等をしていくことも必要である。

3. 取組状況等

市内各小中学校に調査したH30年度を取組の内訳は以下のとおり。
 ○登下校安全指導
 ○学習支援活動 (国語・理科・社会・外国語・図工・家庭・技術・総合的な学習、生活、道徳、読み聞かせ等)
 ○環境整備 (施設・備品等の補修・清掃、花壇や植木の剪定)
 ○学校行事 (運動系、文化系)

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実	
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。	
計画内容及び主要な施策	(1) 市民の文化・芸術活動の支援 (2) 伝統文化及び文化財の保存と継承 (3) 文化施設の有効活用	

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32 目標値	説明等
B	観劇会イベント参加者数	人	350	1,380	1,600	市民会館の改修により、大ホールの客席数が大幅に減少した。 平成 30 年度の 2 事業ともにほぼ満席であった。
	市民会館利用状況					
	文化団体数					
	指定文化財					

2. 課題等

これまでどおりの安価な料金での提供を考えると、ニーズに合った催し物を選定したうえで鑑賞事業の提供をしなければならず、決算時には赤字にならないような料金設定も必要となる。会員の確保も重要であり、2 事業の内容バランスも必要である。

3. 取組状況等

<p>○ 「川野夏美 20 周年・ふるさとコンサート i n 津久見」 ～災害復興から歌声で元気を～ H30.6.24 (日) 15:00～市民会館大ホール 入場者数 697 人 入場料 2,000 円 (全席自由)</p> <p>○ 「三浦祐太郎 Live Tour “47MERODIES”」 H31.2.24 (日) 15:00～市民会館大ホール 入場者数 683 人 入場料 3,000 円 (全席指定)</p>

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

		担当課	生涯学習課
施策名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実		
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。		
計画内容及び主要な施策	(1) 市民の文化・芸術活動の支援 (2) 伝統文化及び文化財の保存と継承 (3) 文化施設の有効活用		

1. 施策指標の進ちょく状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29 年 度	30 年 度	H32 目 標値	説明等
	観劇会イベント参加者数					
B	市民会館利用状況	件	1,723	1,594	1,600	会議室やホール等、会館の利用件数
	文化団体数					
	指定文化財					

2. 課題等

近年、市民会館は大規模改修を行い、エレベーター・トイレ・駐車場等が利用しやすくなったとはいえ、改修をしなかった箇所等の修繕が多くなってきている。

3. 取組状況等

平成 30 年度から文化協会加盟団体等に対して使用料減免制度を設けたため、利用しやすい会館づくりに努め、利用者の促進を図りたい。

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実	
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。	
計画内容及び主要な施策	(1) 市民の文化・芸術活動の支援 (2) 伝統文化及び文化財の保存と継承 (3) 文化施設の有効活用	

1. 施策指標の進捗よく状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29年度	30年度	H32 目標値	説明等
	観劇会イベント参加者数					
	市民会館利用状況					
B	文化団体数	団体	32	31	35	市文化協会加盟団体数
	指定文化財					

2. 課題等

人口減少に伴い、会員の高齢化と若年層の団体活動に参加意欲が希薄になっており会員数の減少傾向が進んでいる。
市の文化振興に求められる取組として、「子ども、次世代への支援の充実」と身近な場所で文化に触れる機会の充実が必要となっている。

3. 取組状況等

市文化協会は令和 2 年に設立 50 周年を迎えるために、運営強化と活動充実に向けた取組を進めている。
平成 30 年度は市民文化祭を中心に、国民文化祭関連行事も含め、各団体の発表会やボランティア活動に取り組み、市内外で延べ 46 回の実績が報告されている。(総会資料 事業活動実績から)

平成 30 年度分 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

	担当課	生涯学習課
施策名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実	
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。	
計画内容及び主要な施策	(1) 市民の文化・芸術活動の支援 (2) 伝統文化及び文化財の保存と継承 (3) 文化施設の有効活用	

1. 施策指標の進ちょく状況 (指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。)

評価	施策指標の名称	単位	29 年度	30 年度	H32 目標値	説明等
	観劇会イベント参加者数					
	市民会館利用状況					
	文化団体数					
A	指定文化財	件	29	34	30	H30 年度は市指定天然記念物 1 件、市指定有形文化財 4 件の指定を行った。

2. 課題等

文化財については、ひとつの文化財を単独で捉えるだけでなく、歴史・民族・自然などを地域の中で位置づけ、総合的なものの中で見ていくことが重要視されており、これまで地域の文化財マップ等を設置してきた。今後も地域の文化財や自然を総合的に捉える取組を継続していくことが重要。
市内の巨樹・巨木林については平成 12 年に行われた調査以降は調べられていない。台風の影響による状況の変化等、現状把握のためフォローアップ調査が必要である。
伝統芸能については、少子高齢化の進展に伴った後継者不足により保持団体の維持が困難になっているので、後継者の育成が重要課題。また、用具や衣装等の購入のための資金調達の難しさもうかがえるため、保持団体と協議しながら順次助成に向けた取組を継続していくことが重要。

3. 取組状況等

文化財 市指定天然記念物 1 (中田鍛冶屋天満社イヌマキ)
市指定有形文化財 4 (海徳寺の魚鱗塔、深良津の蛭子像、西郷文書、二村薫調査記録)
伝統芸能 H30 年度沖永文化振興財団の地域文化活動助成に堅浦古典芸能保存会が採択 (用具整備事業 神楽鈴、小刀)
H31 年度伝統文化親子教室事業 (文化庁) に堅浦子供伝統文化教室、津久見こども伝統文化教室、千怒子供伝統文化教室、津久見いけばな子供教室、日見区盆踊り保存会が申請し、採択されている。